

# All-Member-Meeting-20190919 License-Info\_SWG

## 全体発表の場

### 初めに

- アンケート

**組織間のライセンス情報授受 SWG** と聞いて、何をやるためのワーキンググループだと思いますか？

- 答え

(leafletを開き、p.8を表示)

実業務において、ソフトウェアサプライチェーンに起因するOSSライセンスコンプライアンスに関する懸案が非常に増えています。

※(閑話休題) ピンとこない方、どのような問題が起きているのか、把握したい、という方はリーフレットSWGを聴講して頂くのが良いです。

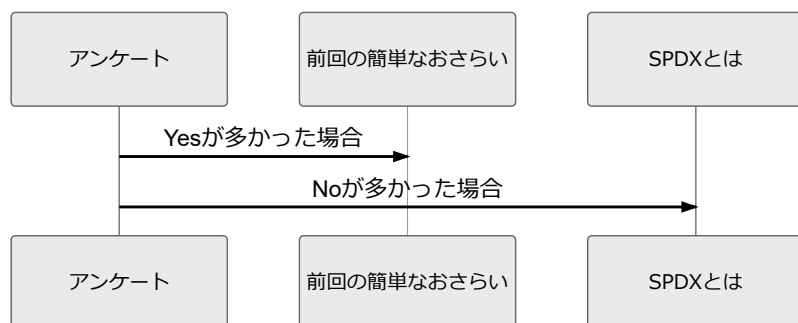
(ppt p.2を表示)

OpenChain JWGでその問題を話し合っていた時、ソフトウェアの供給者から受領者に何を渡す必要があるのか、がOpenChain仕様では範囲外となっていることが分かりました。

その為、この問題を解決するために、各産業界のリーダーの方々が集まっているこの場で、実際にどのような情報が必要なのか、どのようにそれを管理、伝達していくのが効率的なのか、ということを解決するためのワーキンググループとして発足しました。

## SPDXについて

- 前回参加した人、もしくはSPDXを知っている人はどのくらいいらっしゃいますか？



## SPDX®とは

Software Package Data Exchange® <<https://spdx.org/>>

is an open standard for communicating software bill of material information.

(including components, licenses, copyrights, and security references)

製品に含まれる、オープンソースソフトウェアを決められたフォーマットでファイル化するための仕様です。

また、さまざまなOSSライセンスを網羅し、その略称を規定しています。これらライセンスリストは、<<https://spdx.org/licenses/>>にあります。

具体的なサンプルは、

<<https://github.com/OpenChain-Project/Onboarding-JWG/blob/master/License-Info-Exchange/Doc-at-Meeting/LicenseInfoEXchange.pptx>>を参照してみてください。

## 前回のおさらい

(ppt p.3を表示)

- 最低限必要な情報を調査、まとめる
- 既に、SPDXという仕様が存在するので、それと歩調を合わせて進める

3. その仕様をどのように運用していくのかのガイドラインをまとめる  
この3つをポイントとして、活動を継続しています。

また、そもそもOSSライセンスについて詳しくないサプライヤ、SPDX®が何なのか知らないサプライヤ、SPDX®を生成するツールを利用できないサプライヤの為に、まずは**導入として**、最低限必要な情報を定義し、その情報を出していただく為の活動をこのWGでは行っています。

## 前回からの進捗

1. 実際に使われているOSSを基に、SPDX-Lite仕様でファイルを作成してみて、過不足が無いのか、手作業で作る際に難しいところがないかを議論  
(mbedTLSの例を基に)
2. SPDX本家と歩調を合わせた活動を行う為に、最低限必要な情報を、仮称SPDX-Liteとし、SPDX WGとのミーティングを経て、以下に send-pr.  
<<https://github.com/spdx/spdx-spec/pull/133>>
3. SPDX WGメンバとの議論を経て、SPDX v2.2の一部として取り込んでもらえることに!  
<<https://github.com/spdx/spdx-spec/pull/133#issuecomment-527559367>>

## 提案資料

<<https://github.com/spdx/spdx-spec/files/3599056/SPDX-Lite-overview-20190905.pdf>>

## 今後

資料、p.9参照。SPDX仕様との整合性を図るため、少しだけ必要な情報が増えました。SPDX-Liteとして扱う際にはこの情報も埋める必要があります。

ただし、これはOSS提供元が埋める必要はなく、受領側で埋め、管理していくこととなります。

これらについて運用ガイドラインを発行し、誰もが取り組みやすくなるような仕様としていきます。

また、SPDX-Liteは、SPDX®の一部として、

1. AGL(Automotive Grade Linux) <<https://www.automotivelinux.org/>>
2. scancode-toolkit <<https://github.com/nexB/scancode-toolkit>>  
でサポートする、といった議論も進んでいます。

是非、ML、Slackに入って議論に参加してください。

## Q&A